

## プロジェクトリーダー:名古屋学院大学 スポーツ健康学部 中野貴博准教授

### 事業実績調書

(1) プロジェクト名	こどもの体力・運動能力, 活動意欲向上を目指した調査・実践
(2) プロジェクトの成果 (※そのような成果が得られたかについて具体的に記載)	<p>2017年度は主に3つの活動をベースに成果を得た。3つの活動とは、1) 瀬戸市内の小学校1, 2年生を対象に集中的な運動実践、2) 瀬戸市内の小学校2年生の保健体育授業を協働、3) 瀬戸市内の幼児を対象とした体力測定と非認知能力の調査、であった。</p> <p>まず、1) では、昨年度の課題であったイベント的取組から定期開催への展開を目指し、昨年度2期5日間の取り組みを、今年度は2期13日間の取り組みへと拡大した。また、参加者数も52名から86名へと拡大することができた。また、活動の内容をリーフレット形式にまとめ関連教育機関および保護者への配布を準備できた。次に2) では、昨年度の6回の活動</p> <p>を16回へと倍以上に拡大することができた。また、活動の中では、2年生を対象に全8種目の新体力テストを実施し、個人票の作成 ⇒ 子ども、保護者向けに個人票を配布 ⇒ 保護者に子どもの体力データを見た結果をアンケート調査を行うことで、保護者の子どもの体力・運動能力に対する認識を考察することができた。結果としては、多くの保護者が子どもの体力を過大評価していることがわかり、保護者への意識喚起の重要性が再認識された。さらに、子ども達の運動機会増加のために工夫を施した実践なども展開することができた。最後に、3) では、5つの園を対象に、近年重要視されている非認知能力と体力との関係性を検討した。体力と非認知能力には強い関係性が確認され、運動促進とともに、非認知能力のような教育的ターゲットにも目を向けることの重要性が確認された。また、これらの成果は、保育士研修会や学校現場での講演会等で公表をした。</p>
(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)	<p>前節で示した通りの3つの活動について示す。1) 瀬戸市内の小学校1, 2年生を対象に集中的な運動実践、では、前述の通り13日間、計86名の児童を対象に実践活動を展開した。実施場所は、名古屋学院大学瀬戸キャンパスの運動施設であった。参加者の募集は、第1回の開催では、教育委員会との協力のもと全小学校に募集用紙を配布し、103名の応募者から33名を選出した。さらに、第2回の開催では、第1回で応募のあった103名に開催案内をお送りし、53名から応募があった。次に、2) 瀬戸市内の小学校2年生の保健体育授業を協働、では、瀬戸市立下品野小学校の協力のもと、2年生の体育授業に16回、延べ48時間に関わることができた。体づくり運動、水泳、ボール運動などの授業の補助および改善に尽力した。一例として、ボール運動の際に、児童がなかなかボールをキャッチすることができない現状を改善するために、運動遊具の工夫を行うことで、関わりの機会の向上を図るなどした。前述の体力テスト実施と保護者への意識調査結果も含めて、3月に下品野小学校関係者と意見交換を行う。最後に、3) 瀬戸市内の幼児を対象とした体力測定と非認知能力の調査、では、379名の幼児を対象に、体力・運動能力テストと非認知能力調査を実施した。体力テストは学生補助も含めたチームで巡回で行った。また、非認知調査に関しては、各園の園長に了承を得た後、担任の保育士に園児の様子を21項目にわたり評価していただいた。成果は、市内の保育士研修会で公表した。2017年度の主な取組は以上である。</p>
(4) プロジェクトの今後の課題と展望	<p>本学運動施設での多様な運動実践に関しては、1) これまで通り年に2回の実践を展開、2) 多様な運動実践に加えターゲットとする運動要素を焦点化した取組、3) 保護者への意識喚起を強化、を行う。小学校現場での活動に関しては、1) これまで同様の活動を継続、2) 体力評価 ⇒ フィードバック ⇒ 保護者への意識喚起 を強化、3) 対象校を3校程度に拡大予定 である。また、リーフレット等の作成に関しては、2017年度同様に実施していく。最後に、各活動の成果や活動の中での課題を反映、検証するための調査として、1) 継続して非認知能力と体力との関連調査、2) 子ども達の体力問題と貧困問題との関連性の調査、を行っていく予定である。</p>